

# 社会人の学習関心の分析

文部省大学局科学官

西田 亀久夫

“生涯教育”ということとは、教育上の理念というよりは、今日では既に社会的な現実となっている。さまざまな学習の機会が広く一般に開放されるにつれて、学習者は社会のさまざまな階層に拡大しつつある。社会人を対象とする教育事業は、新しい産業部門を形成する勢いを示している。

ところが、教育事業のこのような拡大にもかかわらず、今日の社会人がどのような学習上の関心をいっているかについては、意外に資料が乏しい。それは“教育”ということについて、我々に一つの先入観があるからではあるまいか。すなわち、教育活動のモデルとして、我々は学校を考える。学校にはそれにふさわしい教育課程というものがあり、そのメニューに従って勉強するのが教育だという考え方があからずかである。

ところが、生涯教育のシステムを考える立場からいえば、どんなカリキュラムを用意するかは、学習したいと思う人が、いかなる動機から、どんなことを学びたいと希望しているかを考慮に入れなければならない。そのためには、教育需要に対するマーケット・リサーチが必要となる。

その一つの例として、資料としてはやや旧聞に属するが、昭和50年6月、文部省で検討中の「放送大学」の基本計画立案のために行われた「教育需要予測調査」の結果分析の一部をここに紹介してみたい。これは単に放送大学のためというよりは、今日の日本国民の学習関心の一つの断面を示している点において、興味深いものがあるからである。

## 調査方法の特色

上述の調査は、10問からなる質問紙を用いて、5,000人の対象に対して面接の方法で行われた（実施は新情報センターが担当した）。サンプルは、満18歳以上の全国民を代表するよう抽出され、有効回収率は83.1%であった。しかし、ここでは、国民の学習上の関心がどんな領域にあるかを知るために行った二つの質問を中心に解説してみたい。

その質問とは、次の表のようなものである。Q1では33のテーマを挙げて、勉強してみたいと思うものを幾つでも指摘できるようにした。この33項目は、大英百科辞典の目次を参考にしながら、できるだけ一般に理解されやすいもので、関心領域の整理に便利なものを作った。Q2は、重ねてその中から、最も関心の高いものを一つだけ指摘することを求めた。

このような項目は、通常の大学における学部・学科や授業科目と必ずしも対応していない。調査計画としては、むしろ意識的にそれらとの対応を避け、知的関心がどんな方向に向いているかを単的に知りたいたと考えた。また、Q1で多数の項目を自由に指摘させ、Q2でその中心を指摘させることによって、



Q1 あなたが、勉強してみたいと思われるテーマは、つぎのうちどれですか。  
いくつでもあげて下さい。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 01 物質とエネルギー     | 21 歴史のみかた      |
| 02 宇宙と天体        | 22 世界観・人生観・人間観 |
| 03 地球の科学        | 23 科学的思考法      |
| 04 生命現象         | 24 資源          |
| 05 生物と環境        | 25 工業・技術と生産    |
| 06 人類           | 26 農業と食糧       |
| 07 健康と病気        | 27 建築と都市計画     |
| 08 人間の意識と行動     | 28 情報処理と伝達     |
| 09 パーソナリティ      | 29 経営と管理       |
| 10 言語とコミュニケーション | 30 開発と環境       |
| 11 衣食住          | 31 論理          |
| 12 余暇と遊び        | 32 外国語         |
| 13 社会の組織と動き     | 33 数学          |
| 14 経済のしくみ       |                |
| 15 政治のしくみと動き    | 34 その他( )      |
| 16 社会の秩序と法      |                |
| 17 教育           | 35 わからない       |
| 18 文学と芸術        |                |
| 19 宗教           |                |
| 20 地域と文明        |                |

Q2 いまあなたが選んだテーマのなかで、一番勉強したいものは、どれですか。

個々のテーマの指摘よりは、それら一連の指摘を支配する各個人の内部要因を少しでも伺い知ろうとしたところに、この調査方法の特色があるといえよう。

#### 中心テーマと関心テーマの関連分析

そこで、上述のQ1、Q2に対する回答結果を、回答者の個人的な特性に分けて単純集計したものはここでは割愛することとし、Q2に対する回答において特定の中心テーマを指摘した人が、Q1の回答でどんなテーマに関心を示したかを調べてみることにした。中心テーマの主要なものについて、その結果をまとめたのが、第1表である。(次頁参照)

この表で、例えば、Q2において中心テーマ7(健康と病気)を指摘した人を見ると、その人々は、Q1においては、テーマ11(衣食住)とテーマ17(教育)に対して、それぞれ、53%、31%という大きな割合で関心を示したことがわかる。逆に中心テーマとして11や17を指摘した人を見ると、この人々も、Q1においてはテーマ7に対して、それぞれ、55%、43%という強い関心を示してい

(第1表) 中心テーマ別に見た関心テーマの分布

Q2 \ Q1	中心テーマ											
	7	8	11	14	15	17	18	22	25	29	32	
1	3	20	0	0	0	5	4	11	18	3	2	
2	2	7	2	5	0	2	0	11	7	0	7	
3	2	0	0	0	0	2	0	6	18	0	0	
4	10	13	4	5	6	9	8	28	4	0	5	
5	17	7	4	5	18	0	4	22	7	0	2	
6	3	7	2	5	6	0	4	6	4	0	7	
7	100	33	55	9	35	43	24	22	11	17	23	
8	10	100	9	0	24	18	24	28	11	6	5	
関	9	0	13	2	0	7	4	6	7	0	5	
10	3	33	4	5	0	11	28	11	7	9	19	
11	53	20	100	9	6	36	12	17	0	0	19	
12	12	20	13	14	12	7	12	28	18	3	9	
心	13	14	20	4	9	24	9	4	22	4	17	5
14	17	20	13	100	53	18	0	11	14	31	14	
15	7	20	9	50	100	2	0	0	0	31	16	
テ	16	9	20	4	14	24	7	8	22	0	11	5
17	31	20	30	9	12	100	20	39	0	9	12	
18	10	0	19	9	6	18	100	11	7	6	26	
19	5	7	11	9	12	5	4	11	0	0	7	
20	2	0	0	0	0	2	8	6	4	0	12	
21	7	7	15	9	0	9	8	6	4	6	16	
22	7	13	11	14	24	9	16	100	11	3	21	
マ	23	0	13	0	5	0	4	0	7	11	2	
24	7	0	2	9	6	0	4	0	14	14	5	
25	0	7	6	5	0	2	0	0	100	14	0	
26	7	7	13	9	35	0	0	17	4	11	7	
27	0	7	0	5	6	5	0	6	7	20	7	
28	0	27	2	23	6	5	4	6	25	26	2	
29	5	13	9	18	24	5	4	0	32	100	12	
30	3	13	0	18	12	0	8	6	14	9	2	
31	2	0	0	5	0	0	0	0	0	3	2	
32	5	20	15	14	12	16	44	22	25	23	100	
33	3	7	0	0	6	5	8	0	18	3	7	

- (注) 1. 各中心テーマ指摘者数を100とした場合の比率を示す。  
2. この表は、放送大学ができたとき、それを利用して単位や資格を取りたいと希望する本格的学習者だけの傾向を示す。



る。すなわち、中心テーマ7、11、17の人々は、関心テーマにおいて強い共通性をもっていることが伺われる。

そこで、各中心テーマ指摘者相互間の共通性を調べてみることにした。その方法としては、中心テーマXの人のテーマYに対する関心の割合と、中心テーマYの人のテーマXに対する関心の割合との相乗平均によって、テーマXとテーマYの共通性を表わすことにしてみた。(相乗平均の方が、片方の割合が0であれば共通性が0になるという特色がある。)

このような共通性を、すべての中心テーマ相互間について計算し、そのうち、共通性の強いテーマをできるだけ塊となるように排列して図解したのが、第1図である。(次頁参照)

この図の中で、太い線で結ばれているテーマは、両者を中心テーマとして指摘した人の間に極めて強い共通性があることを示している。例えば、テーマ11(衣食住)とテーマ7(健康と病気)の指摘者の間には、平均54%の共通性がある。

このような共通性の複雑なからみ合いの中にもおのずから一定の傾向が見られる。すなわち、図の左上に〔A〕で示したテーマ11、7、17の群、右側〔B〕のテーマ16、13、14、15、28、29、25の群と左下〔C〕のテーマ18、32の群が顕著である。これらは三つの関心群として、それぞれ特徴をもっている。〔A〕は個人の家庭生活に関連するものが多く、〔B〕は実社会の活動場面に関連しており、〔C〕は語学・文芸に関連している。

これに反して、〔D〕群として区別したものは、〔A〕、〔B〕、〔C〕各群にそれぞれ関連をもっている。このことは、テーマ10(言語とコミュニケーション)、テーマ8(人間の意識と行動)、テーマ22(世界観・人生観・人間観)などは、独立した関心群というよりも、〔A〕家庭生活、〔B〕実社会、〔C〕語学・文芸の各関心群から、それぞれ内容的には異なる角度の関心を示されるテーマであることを示している。

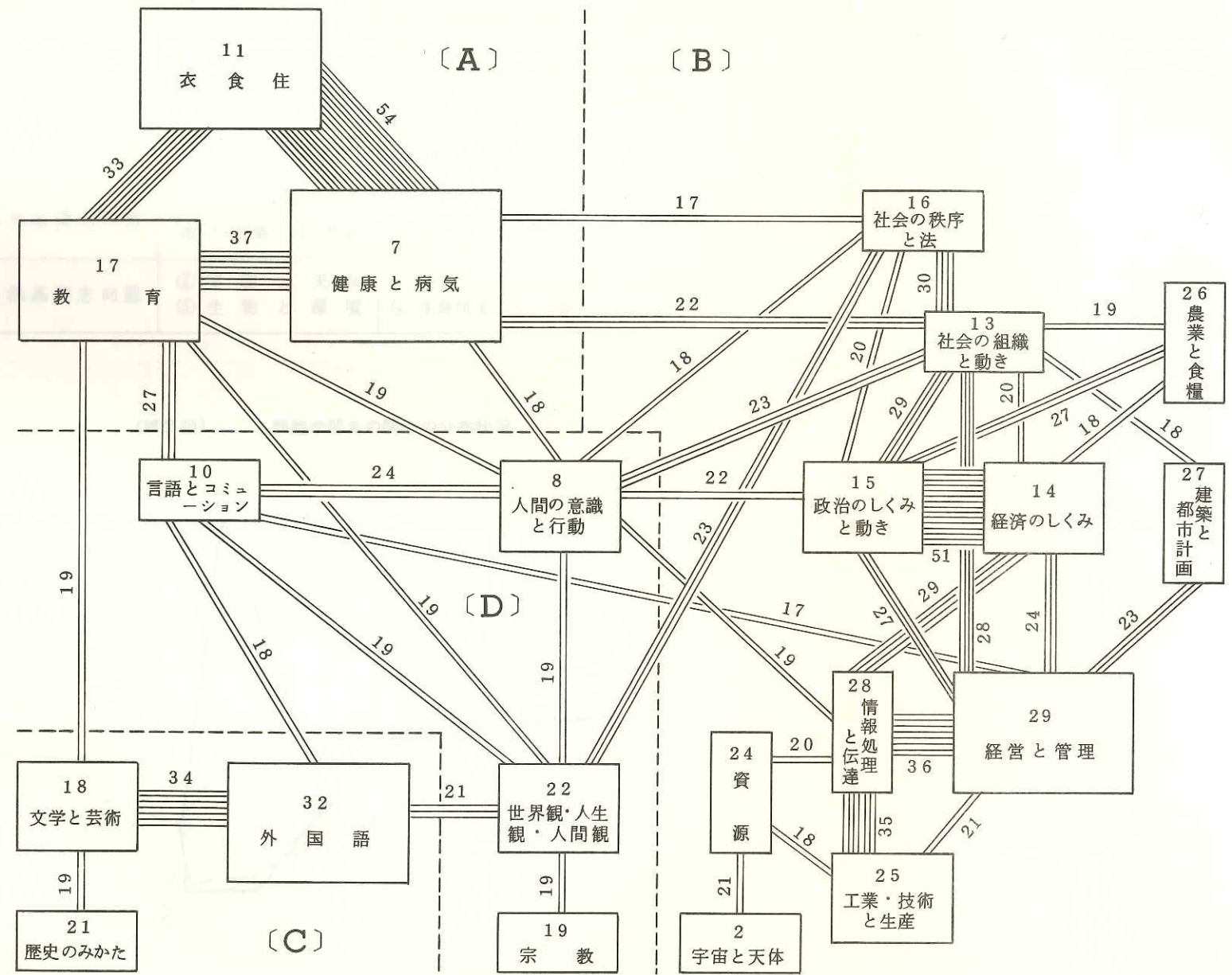
また、第1図においては、中心テーマとして指摘した人の数が多いものほど大きな四角で示してある。この点からいっても、〔A〕、〔B〕、〔C〕は国民の学習関心を示す三つの代表的なグループであるといえることができる。

#### 学習者の類型別の分類

上述のような関心テーマの相互関連を念頭に置くことによって、国民をその学習関心によって幾つかの類型に分けることができるであろう。さきに述べた各テーマ間の関心の共通性に着目して、第2表のような五つの類型を取り出すことができる。この表にいう基幹テーマ又は関連テーマを中心テーマに指摘した人を、それぞれ、「実生活志向型」、「産業社会志向型」、……と仮に名付けることとする。

このような分類はあくまで便宜的なものであって、ある類型に属する人が他の類型のテーマに関心が全くないというわけではない。そこで、第2図に示すように、各類型に分類した学習者が、Q1の質問に対してどんなテーマに関心を示したかを調べてみた。この図からわかることは、「実生活」と「産業社会」の志向型に属する学習者は、その関心の過半数が自己の領域内にあって、かなり鋭な集中度を示しているが、その他の類型の学習者は、他の領域についてもかなり幅広い関心をもっていることがわ

(第1図) 各テーマに対する関心の相互関連図

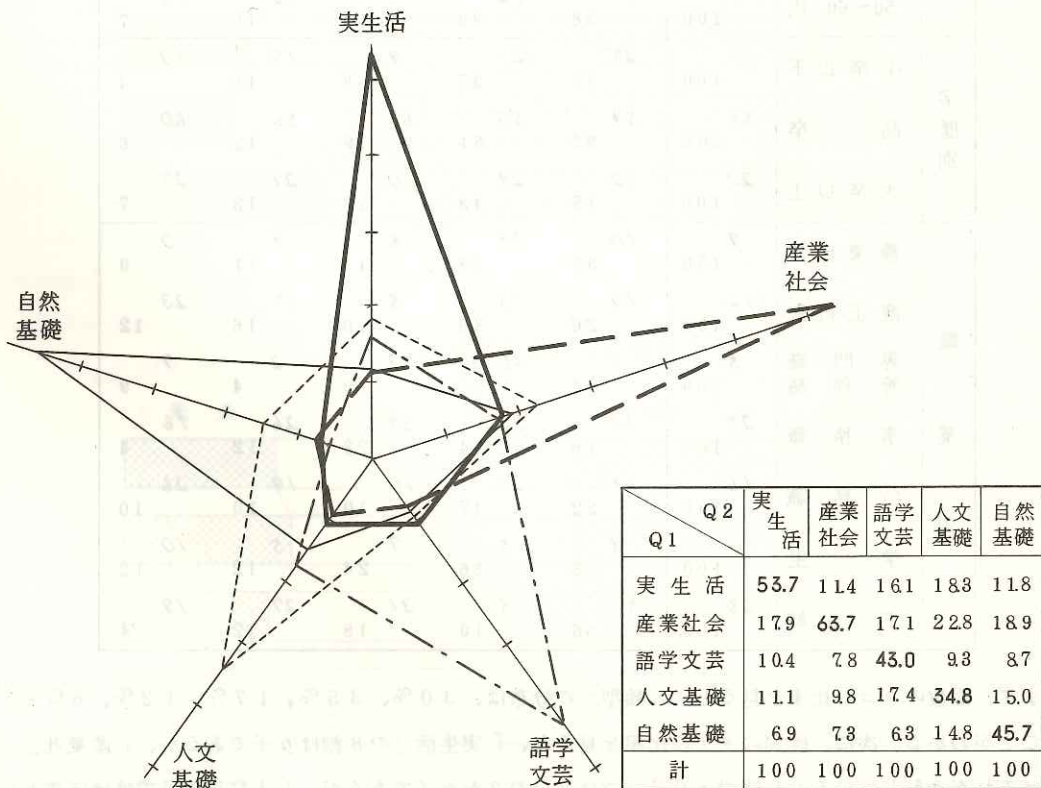




(第2表) 学習者の学習関心による類型

学習者の類型	基幹テーマ	関連テーマ
1. 実生活志向型	⑦ 健康と病気住 ⑪ 衣食住	⑰ 教育、⑱ 余暇と遊び
2. 産業社会志向型	⑲ 経営と管理 ⑳ 工業技術と生産 ㉑ 経済のしくみ	⑲ 社会の組織と動き、⑳ 政治のしくみと動き、㉑ 社会の秩序と法、㉒ 情報処理と伝達、㉓ 農業と食糧、㉔ 建築と都市計画 ㉕ 資源、㉖ 開発と環境、㉗ 数学
3. 語学・文芸志向型	㉘ 外国語	⑱ 文学と芸術、㉙ 地域と文明 ㉚ 歴史のみかた
4. 人文基礎志向型	⑧ 人間の意識と行動 ㉛ 人生観・世界観	⑱ 宗教、⑲ 言語とコミュニケーション、 ㉜ 科学的思考法、⑨ パーソナリティ、 ㉝ 論理
5. 自然基礎志向型	② 宇宙と天体 ⑤ 生物と環境	① 物質とエネルギー、③ 地球の科学、 ④ 生命現象、⑥ 人類

(第2図) 各類型学習者の関心の分布状況



かる。

このことは、これらの学習者のために教育課程を用意する場合、その主専攻以外の分野についても、相当選択の幅を広げておく必要があることを示していると考えられる。

次に、このような類型別に区分された学習者はどんな内訳をもっているかをながめてみよう。その百分比を第3表に示した。

(第3表) 各類型別学習者の構成率

区 分		総 数	実志 生向 活型	産志 業向 社会型	語志 学向 文芸型	人志 文向 基礎型	自志 然向 基礎型
総 数		100 100	100 30	100 85	100 17	100 12	100 6
性 別	男	50 100	17 10	83 57	35 12	47 11	77 10
	女	50 100	83 50	17 12	65 22	53 13	23 3
年 齢 別	10~20 代	36 100	24 20	35 84	60 29	37 12	32 5
	30~40 代	52 100	62 36	53 85	33 11	53 12	55 6
	50~60 代	11 100	14 36	12 86	7 10	10 10	13 7
学 歴 別	中 卒 以 下	21 100	29 48	21 85	9 8	17 10	13 4
	高 卒	56 100	59 82	50 81	61 19	56 12	60 6
	大 卒 以 上	23 100	12 15	29 43	30 22	27 13	27 7
職 業 別	農 業 自 営	9 100	10 34	11 43	6 11	9 11	0 0
	商 工 自 営	12 100	10 26	13 36	8 10	17 16	23 12
	専 門 職 管 理 職	5 100	1 4	10 74	3 9	2 4	7 9
	事 務 職	25 100	13 16	32 44	35 23	26 12	16 4
	労 務 職	16 100	11 22	21 47	10 10	14 10	26 10
	学 生	5 100	3 16	5 36	7 24	5 12	10 12
	主 婦	28 100	51 56	8 10	31 18	27 12	19 4

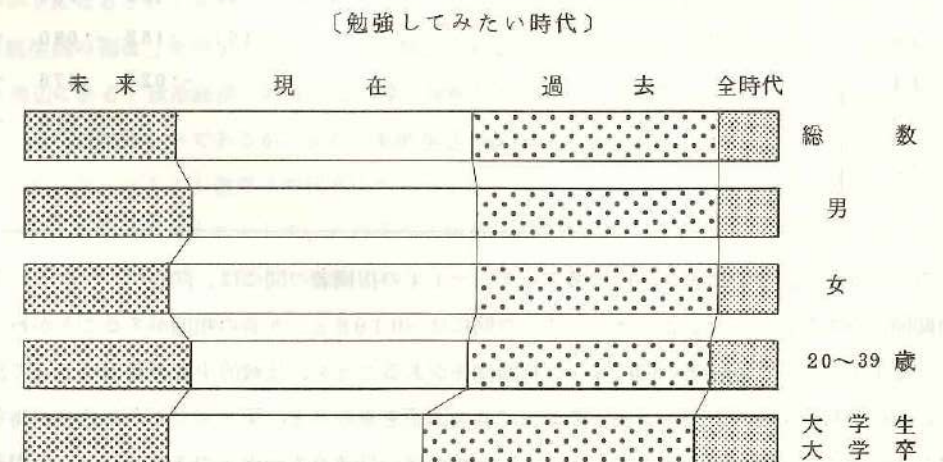
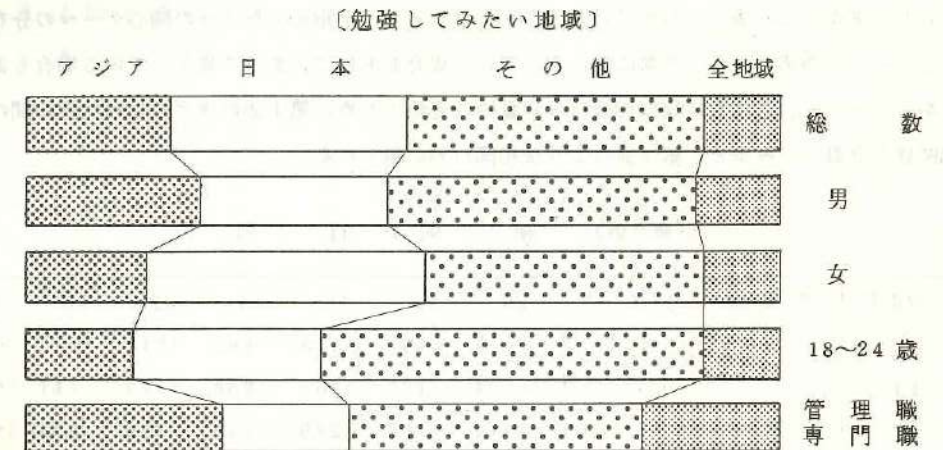
まず、総数のヨコの比率を見ると、5類型への分布は、30%、35%、17%、12%、6%であることがわかる。次に、性別のタテの比率を見ると、「実生活」の8割は女子であるが、「産業社会」ではそれが逆転している。「語学・文芸」では3分の2が女子であるが、「人文基礎」ではほぼ男女同

率であり、「自然基礎」では8割近くが男子である。年齢別でタテの比率を見ると、「実生活」では30代以上が4分の3を占めるのに対し、「語学・文芸」では20代以下が過半数を占めているが、その他のものは年齢的な偏りは少ない。学歴別のヨコの比率を見ると、低学歴者が「実生活」、高学歴者が「産業社会」に集中する傾向を示している。職業別でもヨコの比率から、主婦の「実生活」への集中、管理職・専門職や労務職の「産業社会」への集中、事務職や学生の「語学・文芸」への集中が顕著であることがわかる。

学習関心の地理的・歴史的分布

学習関心のテーマ別の分布とは一応別個に、学習者が、どんな地理的な地域や歴史上の時代について、勉強してみたいという関心をもっているかを調べたのが、第3図である。

(第3図) 学習関心のある地域と時代





回答者の特性によって、関心のある地域や時代にいろいろな特徴が見られるが、そのうち、調査対象数に基づいて統計上有意の差（有意水準5%）があるといえるものだけを、この図に示した。

- a) 男子は女子よりも、日本以外の地域について関心が強い。
- b) 18～24歳の者は、それより年長の者に比べて、アジアや日本以外の地域に関心が強い。
- c) 管理職・専門職は、他の職業の者より、アジア及び全地域に対する関心が強い。
- d) 男子は女子よりも、未来への関心が強い。
- e) 20～30代の者は、他の年齢の者より、未来への関心が強い傾向を示す。
- f) 大学生と大学卒の者は、現代より過去の時代に対する関心が強い。

テーマ選定の因子分析

最初に述べた二つの質問Q1、Q2に対して、回答者はいろいろな反応を示した。各個人は、自分の内なる興味と関心に従って自由に中心テーマと関心テーマを指摘した。その結果はさきに述べた第1表のとおりである。この表をながめていると、ある中心テーマを指摘した人々の関心テーマの分布が、他の中心テーマ指摘者のそれと非常に似かよっている場合もあれば、まるで異なっている場合もあることがわかる。そこで、それらの類似の度合を定量的に表わすため、第1表のタテの分布状況の間のヨコの相関関係を計算してみると、第4表のような相関行列が得られる。

(第4表) 相 関 行 列

テーマ番号	7	11	17	32	29	25	18	14	22	15	8
7		・785	・593	・153	-・002	-・151	・173	・065	・211	・235	・288
11			・577	・263	-・024	-・128	・353	・059	・190	・117	・164
17				・204	-・012	-・162	・295	・045	・318	・054	・258
32					・153	・011	・526	・118	・204	・106	・067
29						・263	-・064	・390	-・198	・381	・066
25							-・070	-・009	-・158	-・156	-・028
18								-・101	・182	-・090	・121
14									-・020	・676	・050
22										・115	・228
15											・240
8											

この表によれば、中心テーマ7の指摘者とテーマ11の指摘者の間には、関心テーマについて0.785の相関関係があり、テーマ22とテーマ29の間には-0.198という負の相関があることがわかる。このような11のテーマ指摘者の間に55の相関関係があることを、比較的少数の要因によって説明するため、因子分析法（セントロイド法）によって共通因子を求めると、第5表のような結果が得られた。

第5表の第I因子は、テーマ11、7、17に最も深い関連をもつ因子であるから、この因子は「家

(第5表) 因子分析の結果

テーマ	因子	I	II	III	IV	V	VI	共通性
11 衣食住		・75	・03	・19	・47	0	・02	・82
7 健康と病気		・71	・07	-・01	・52	・18	・06	・82
17 教育		・74	・03	・13	・01	・30	・06	・66
15 政治		-・06	・81	0	・36	・25	-・05	・85
14 経済		・03	・80	-・02	・03	-・07	・05	・65
29 経営管理		-・11	・42	・06	・12	-・13	・53	・50
25 工業技術		-・16	-・04	・01	・07	-・14	・48	・28
32 外国語		・16	・13	・72	0	0	・09	・57
18 文学芸術		・23	-・10	・71	・05	・05	0	・57
22 世界観		・24	0	・22	-・05	・45	-・20	・35
8 人間意識		・13	・11	・09	・11	・46	・14	・28
寄与率		1・81	1・52	1・14	0・66	0・64	0・59	6・36
因子の解釈		家庭生活の福祉	政治経済の理解	言語文化への嗜好	私的生活の保障	人間性の探究	産業実務の修得	

庭生活の福祉」に関するものと解釈することができる。また、第II因子は、テーマ15、14、29に関連するから、「政治経済の理解」を求めようとする因子と考えられる。同様にして、「言語文化への嗜好」、「私的生活の保障」、「人間性の探究」、「産業実務の修得」などの因子があると考えられる。

これらの因子の意味の解釈は、その負荷の大きいテーマの趣旨から類推した主観的なものであるが、学習者がいろいろなテーマを選択した場合における基本的な関心がどんなものであったかを推定する一つの手がかりになることは間違いない。すなわち、国民の学習関心の底にある最も深い動機づけは、個人の「家庭生活の福祉」を向上させたいという願望であるように思われる。その次に強力な動機は、われわれの周辺にある「政治経済」社会をより深く理解したいという願望である。「言語文化への嗜好」の意味は、それ自体明らかであるが、次の「私生活的保障」とはどんなものであろうか。これは第I因子と異なり、テーマ17（教育）の代りにテーマ15（政治）とかかわりがあるため、個人の衣食住・健康と政治とに関連するものとして、このように解釈してみたのである。

因子分析は、このように学習関心の基底にあるものを推定するのに役立つと同時に、もう一つ別の役割も果たす。それは、第5表において、テーマ17（教育）、テーマ15（政治）、テーマ29（経営管理）などは、それぞれ、因子IとV、IIとIV、IIとVIにまたがって相当な負荷があることに関連している。すなわち、教育というテーマは、家庭生活内の子弟の教育という関心と同時に、人間性の探究という角度からの関心もあることに留意する必要があることを示している。政治というテーマも、社会経



済現象との関連という角度ばかりでなく、個人の私生活への影響という観点から関心をもたれているように思われる。経営管理も、社会経済現象の理解と同時に、より实际的な産業実務の修得という願望と結び着いているといえよう。同様に、テーマ11（衣食住）、テーマ7（健康と病気）も、因子IとIVにまたがっているので、一面では家庭内の実用的な知識への要求が根底にあるといえるが、同時に、私的生活の保障という角度から、われわれの日常生活対政治という外の世界とのつながりを追求したいという観点もこれに含まれていることを暗示しているように思われる。

これらは、因子分析による結果の誇大解釈だという非難を受けるかもしれないが、私には、国民の学習関心にこたえる教育課程を用意する場合、これらのことが極めて示唆的であるように思われる。いずれにしても、学習関心に関するQ1、Q2という単純な質問に対する回答から、その分析の手間さえかければ、上述のようないろいろな結果がでてくるということは、誠に興味深い。これは少なくとも、昭和50年における日本国民の意識の一つの断面であろう。もし同じような方法で異なる国民について調査することができるならば、今日の日本人の特異性がどこにあるかを知る上にも、重要な手がかりを与えてくれるであろう。

因子	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20
I	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
III	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
IV	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

